

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970300273		
法人名	社会福祉法人 星風会		
事業所名	星風会グループホームこすもす1号館		
所在地	栃木県栃木市惣社町121-3		
自己評価作成日	平成24年6月15日	評価結果市町村受理日	平成24年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

委員会活動に力を入れています。委員会を中心に月1回、内部研修を行うことで職員同士のコミュニケーションの場にもなっています。情報を共有化することで利用者のサービスの向上につなげています。また、毎月勉強会を開催し、職員一人ひとりの質の向上につなげています。地域運営推進会議では、地域の方々にご出席を頂き、お互いの情報を共有することで、少しずつではありますが地域とのつながりが持てるようになっていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは田畑に囲まれた閑静な場所に位置している。同法人は北エリアにグループホーム3ユニット・介護老人保健施設・デイサービスセンター・訪問看護ステーション等、南エリアには病院・介護老人福祉施設等があり、各委員会主催で内部研修が多く開催され、情報を共有することで質の向上を図り、日々のケアの支援につなげている。職員全員で作成した3つの項目を掲げた理念を実践に向けて取り組んでおり、介護計画も具体的に分かりやすく書かれているなど、本人・家族も安心して利用できるホームである。災害対策ではホットラインとなる緊急通報装置一覧に近隣住民が登録者として掲げられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の想いやご家族、地域の方々とのつながりを大切にしたい3項目の理念を掲げ、管理者と職員が共に理念を共有し、実践につなげている。	理念は職員全員からの意見に基づき「一人ひとりの想いを尊重。家族との絆・地域とのつながりの大切さ。尊敬と感謝する心を大切にします。」とした。全体会議で唱和をし、全職員が共有し日々のケアの実践に繋げている。また、理念は重要事項の中にも運営規程として掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の神社へ初詣に出掛けたり、法人で開催している地域交流事業(お花見・夏祭り・文化祭)などへの参加はあるが、日常的な交流はない。今後は運営推進会議等で地域の催し物などの情報も得ながら積極的に取り組んでいきたい。	自治会には法人として加入している。地元神社への初詣や、法人で主催する花見に出かけたり、併設の老人保健施設での地域交流行事に参加している。七夕の笹は近所の方が持って来てくれている。	回覧版を通じてホームの行事などを知って貰ったり、緊急通報連絡網に登録している近隣の方に避難訓練(月1回)を見て貰うなどして、地域に根ざしたホームとして地域との交流に努めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	北エリアの地域交流事業でもある「こすもすフェスタ」を年1回開催し、利用者様の発表会の場を設けたり、各施設に作品を展示、施設見学を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の行事予定、行事報告、入退居状況、研修内容などを報告し、必要に応じて出席者からのアドバイスを頂きながらサービスの向上につなげている。	会議は地域代表・利用者代表・家族代表・民生委員・惣社町駐在所・地域包括支援センターの参加により開催している。当ホームから様々な報告をし、参加者からも意見要望が出され、それらの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関することや利用者様の状態等については直接訪問した上で連携を図っている。又、包括支援センターの職員の方にも推進会議に参加して頂き、事業所としてもネットワーク会議に参加する等して協力関係を築けるようにしています。	制度改正や事故対応等について市に出向いて相談に応じて貰っている。2ヶ月に1回のネットワーク会議に参加したり、隣接するデイサービスの場所を提供するなど、密接な協力関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会活動の中で現状や課題を取り上げ、内部研修として開催し、全職員が実践に向けて取り組んでいる。	事業所内の身体拘束委員会の中で年1回アンケート調査を行い、「ダメ」チェック表を作成している。それに基づき、言葉づかいや行動制限についての研修を行い、全職員で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回の内部研修や認知症の勉強会などを開催しながら、具体的に学べる機会を設けている。		

星風会グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらの制度については学べる機会が持っていない。今後必要とされる利用者様も考えられるため、ご家族への周知にも努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時点で十分な説明を行い、不安や疑問点については時間をかけて話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは日常の何気ない会話を大切にし、意見等があればご要望情報として取り上げている。ご家族にはアンケートを実施し、結果を運営推進会議にて報告し、運営に反映させている。	入居者の意見要望は日頃の何気ない会話から把握している。家族からは月1回の支払いに来所した時や年1回のアンケートで要望を聞いている。その結果、メール配信で意見交換することなどを、取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回は全体会議を開催し、意見交換や情報共有ができるようにしています。各委員会活動にも積極的に参加するようにしています。	各ユニット会議は発言しやすい雰囲気、常時様々な意見・要望が出され、事業所内の各委員会に報告し、運営・日々のケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時には給料に反映されています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修には可能な限り参加できるように配慮されています。研修後は事業所内で報告の機会を設け水平展開できるように努めています。また、報告できる技量を身につけていくようにしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修を利用しています。また、県のグループホーム協会に参加していますが、グループホームのネットワークはまだ希薄であり今後の課題となっています。		

星風会グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に見学に来て頂き、ご本人と面接をした上で不安や要望を確認し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談から入居に至るまでは連絡を密にとり、ご家族の不安や要望があれば時間をかけて話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を確認しながら、事業所として出来る限りの対応に心掛けている。こすもすだけで解決できないケースに対しては抱え込まず、他のサービスとの連携に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の生活歴を大切にしながら、ご本人が出来ている事には手を出し過ぎず、出来ない部分は一緒に行いながら、「共に生活している」という気持ちが持てるような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族側は全て施設にお任せではなく、事業所側もやり過ぎてしまうことがないように、入居後もお互いの役割を確認し合うことに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後は関係性が途切れてしまっていることが多い。ご家族の協力も必要ではあるが、地域交流という意味でも今までの関係性を断ち切らない支援に努めていきたい。	時々、利用者からの要望で近場に出掛ける事がある。親戚の方の来所時には、これまでの関係を持続出来るような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おしぼり干しや洗濯物たたみ等、簡単な家事を一緒に行ったり、レクリエーションを通して利用者様同士が関われる時間を大切にしている。		

星風会グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においても継続的な関わりが必要な方には包括支援センター、施設相談員、病院の連携室と連絡を密にとることでご本人、ご家族の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居以降も定期的にご本人の意向を確認し、可能な限りその思いが叶えられるよう努めている。把握が困難な方においては出来る限りご本人の視点に立つように心掛けている。	入浴時などの日常生活の会話の中で、昔行っていたことや、趣味の話などを聴くなどして意向の把握に努めている。意見の表出の困難な利用者には家族から要望を聞いたり、日常生活の中で把握できるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込みの段階で十分な聴き取りまでは難しく、その後に確認することが多い。また、入居前の実態調査を自宅で行うことで、その方の馴染みの暮らしや生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の細かい観察を継続することで、利用者様一人ひとりの状態を把握し、その方に合った過ごし方を尊重している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者間のサービス担当者会議への参加は単発的に限られた利用者様のみになってしまった。今後は継続的な参加を求め、介護計画に反映させていきたい。	要介護認定が切れる1か月前に担当者会議を開催している。出席出来ない職員は前日までに意見を出している。また、家族の意見要望も含め、見直しは6か月ごとに実施されている。介護計画は分かりやすく具体的に記録されて、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活支援記録として個別に記載しており、ケアの実践や気づきなども少しずつではあるが記載できるようになり、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りご本人、ご家族の意向に沿った形で柔軟に対応できるよう努めているが、日々限られたメニューをこなすことに追われがちである。		

星風会グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、行事の際はボランティアの方を招いたりしているが、地域資源との協働までには至っておらず、十分な取り組みとは言えない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医との関係を大切にしているが、ご本人やご家族の希望もあり、入居後は星風会病院に医師を変更している方も多い。受診が必要な場合は職員が付き添ったり、文書での報告を行っている。	かかりつけ医は本人・家族の希望にて多くの利用者が法人の病院に変更し、月2回の訪問診療や突発時の往診を受けている。以前からのかかりつけ医を受診する利用者には、通院時に情報提供書の持参や職員の付き添いなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による健康チェックを受け、利用者様の細かい情報を伝達している。訪問日以外にも状態変化等に対しては連携を密に取り、一人ひとりに合った観察のポイントなどをアドバイスして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご家族了解の下、病診連携室や病棟と連絡を取り合い、病状の経過を確認したり、施設側からの情報を提供している。退院前にはご家族と一緒に同席させて頂き、担当医からお話を伺うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際は重度化した場合や終末期の対応についてご家族へ説明し、意思確認を行っているが、地域関係者と共にチームでの取り組みはできていない。	契約時に重度化や終末期について説明しており、看取りは本人の希望や家族の協力を得られれば主治医と話し合いながら実施する予定である。看取りの指針は出来ているが職員間のマニュアルは未作成である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については看護師による内部研修を実施してきたが、応急手当の定期的な訓練は行っておらず、全ての職員が実践力を身に付けているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(うち1回は夜間)と月1回こすもすとしての避難訓練を実施しているが、具体的な避難策についてはまだ課題が残る。緊急通報装置には地域住民の方々を登録しているが、参加までには至っていない。	年2回消防署指導の下、避難訓練を実施している。また、毎月当ホーム独自の避難訓練を利用者も含めて実施している。緊急通報装置一覧には地域の協力者6名に繋がるよう登録されている。備蓄もあり、法人として自家発電機も用意している。	

星風会グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年1月にプライバシー保護法についての内部研修を実施した。利用者様の尊厳と権利を守るために全職員がプライバシーの尊重と礼儀、個人情報について学び、取り組んでいる。	一人ひとりのプライバシー尊重について全職員に内部研修が実施されている。言葉かけ接遇についても更なる伝達研修が行われており、利用者の尊重に繋がる呼び名で支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人ひとりが持っている力を見極め、自己表現したり、自己決定できるような場面設定に努めている。(食べたいものやその日に着たい洋服など)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりに合ったペースで過ごして頂けるよう努めているが、時間通り業務をこなそうとするあまり、職員側の都合を優先してしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性や好み、生活歴を大切にしながら、その人らしい身だしなみができるよう支援している。(起床時や外出時の洋服選びなど)散髪は訪問理容師さんをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食べ物がある利用者様には代替品を提供したり、その方に合わせた食事形態としている。テーブル拭きや下膳は、できる利用者様は行っているが、調理への参加は殆どなく、職員中心となっている。	献立は食材購入業者の栄養士により立てられており、月1回給食会議時に意見要望を出している。入居者の中にはテーブル拭きや盛り付け・下膳等を職員と一緒に行う方もおり、食事を楽しめる支援をしている。	栄養士によりカロリーは明確にされているが、職員も一緒に摂るなどして食事の楽しみや会話の楽しみを見出すことや食事内容や味などの確認など、食事支援の工夫に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が行っているが、食べる量は一人ひとりの状態に合わせて提供している。摂取量に不安があったり、苦手な飲み物がある場合は、自宅から好きなものを持参して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを実施している。義歯を使用している方は外して頂き、丁寧に磨けるよう援助している。週1回洗剤(ポリデント)を用いて清潔保持に努めている。		

星風会グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを確認し、不快感を与えないよう、その方に合わせた声掛けと誘導に努めている。夜間のみポータブルトイレを使用している方がおられたが、歩行が安定してきたことでトイレでの排泄が可能となった。	生活支援記録表により排泄パターンを把握し、1～2時間おきに自然な声かけ誘導をして支援をしている。ポータブル使用者にもさりげない確認で、安全で安心した排泄に繋げ、歩行での自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操を継続し、リハビリ体操なども取り入れながら便秘の予防に努めているが、運動量は十分とは言えない。また、排便状態を観察し、便秘がちな方には水分を多目に摂って頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事等がある場合は午前中になることもある。14:00～16:30の間に入浴して頂くことが多く、希望通りの入浴時間にはなっていない。しかし、一人ひとりに合った入浴方法で羞恥心にも配慮しながらゆっくり時間をかけて入浴して頂いている。	入浴は毎日実施しており、一人ひとりの入浴は一日おきになっている。入浴剤は季節に応じた物を用意しており主に冬に使用して楽しむ支援をしている。また、入浴順や羞恥心に配慮し、何気ない会話にも傾聴して個々の把握に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使い慣れた好みの寝具類を使用している。寝具とリネン類は定期的に洗濯し、清潔な寝具で休んで頂けるよう努めている。昼間傾眠がちの方には1時間程度休める時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様全員の内服薬の説明書はいつでも見られるようにファイリングし、薬の目的や副作用等については勉強会を開催しながら把握に努めている。薬に変更があった場合は、日誌への記載と随時の伝達で飲み忘れや誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴を大切に、潜在している力を活かしながら役割りにつなげられるよう支援しているが、一人ひとりの取り組みまでには至っていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度前期は週1回の外出支援を目標に取り組んでいるが、一人ひとりの希望には沿えていない。ご家族や地域の方々との協力も得ながら取り組んでいきたい。	週に1回の市内スーパーでの買い物やイチゴ狩り・大平のアジサイ見学・近くの神社まで利用者全員車で出かけている。天候により散歩を兼ねて近くの店まで見守り支援をしている。また、一部の家族は、毎週外出の機会を作っている。	

星風会グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして毎月ご家族よりお預かりし、職員側で管理している。買い物などの際は一緒にレジに付き添い、出来る限りご本人が支払える機会を提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の用件を伺い、職員側からご家族へ連絡をとることが殆どである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間には家庭的な木目調のものを使用し、落ち着いた雰囲気としている。また、塗り絵や折り紙などで季節感を出し、作品をホールや居室の見える場所に飾っている。トイレ内も殺風景にならないよう作品を展示している。	芝生の中庭からリビング・廊下に明るく採光が差し込み、木目調の床も、より落ち着きを醸し出している。壁面には利用者共作の季節感を表す折り紙や塗り絵が飾られ、広いトイレも明るさをイメージして様々な作品が飾られ、安心して利用できるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の会話が苦手な方もおられるため、席替えなども行いながら落ち着いた空間で過ごせるよう努めているが、独りになれる場所は居室に限られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた好みの寝具類を使用し、アルバム等も飾られ、一人ひとりに合った居心地の良い居室に配慮している。一日の時間を居室で過ごす利用者様は少ないため、全体的に持ち込む品は少な目である。	居室の入り口は果物のイラストと名前が掲げてあり、部屋の中も本人と家族が相談して使い慣れた寝具やタンスが持ち込まれている。ベッドはレンタルの方もいる。それぞれが好みの写真や飾り物をして居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下とトイレの入口部分には「トイレ」の貼り紙で分かりやすいよう掲示している。簡易性のベッドなどにも手すりを取り付け、その方の状態に合わせた環境づくりに努めている。		